

## 事例6 転居の秘密

東部のある州に進出した食品の販売会社 J 社は、販売企画を担当する現地社員を採用することになった。

応募者は予想を上回り、高い競争率のなか、女性の G 氏はピカリと光った存在で、面接したトップマネジメントの誰もが彼女に高い点をつけた。キャリアを見ても申し分ない。今回で転職は 3 度目というが、最初の職場では証券会社の役員秘書、次の自動車販売会社では、J 社と同様な販売関係の仕事を 2 年半経験している。彼女は採用内定になった。

採用するにあたって、具体的な話は人事部長の O 氏の仕事である。早速、G 氏を会社呼んで、具体的な面談を行うことにした。G 氏はさっそうと現れ、すっかり打ち解けた様子である。O 氏はほぼ内定ということは G 氏に話さなかったが、幹部達の評価は高いことをにおわせた。G 氏もすっかり J 社が気に入ったようで、「採用されたら、私絶対いい仕事をする自信はあります」といってニッコリ笑う。O 氏も「そうなりといいですね」と応答し、いい雰囲気当面談は進んでいった。

そこで、すでに提出された経歴書につけ加える形でいくつかのデータの記入をしてもらい、結果は 3 日後に通知する旨を伝え別れた。

ところが O 氏は彼女が書いていった書類を見て、ひとつ気になる点を発見した。わずか 2 年の間に 4 度も住居を変えているのだ。しかも、半年間で同じ市内の北地区から南地区に転居している。3 度目の転居などは、さして距離が離れているわけではなく、さしあたって転居する必要がないように思われる。ところが 4 度目、つまり現在はかなり離れた郊外に引っ越しているのだ。O 氏は首をかしげた。そこで、人事担当副社長の A 氏にこの疑問を話してみた。黙って聞いていた A 氏も、「確かに、おかしいな。彼女は経歴書には書けない何か後ろめたい事情があるのではないか」といぶかる。他の幹部の意見を聞いたところ、「当社が必要とするのは定着性ある人材に長期間勤務してもらうことで、G 氏のひんぱんな転居はそれにふさわしくない」ということになり、採用を見合わせようということでもまった。

3 日後、J 社は G 氏に不採用の通知を送付した。ところが、その翌日、O 氏は G 氏からの電話を受けた。「不採用の理由を聞かせてほしい」という。O 氏は彼女が短期間のうちに 4 回も転居していることが印象を悪くした旨の説明をした。それを聞いた G 氏は「なぜその理由を私に確かめなかったのか」といい、この採用拒否を不当として、訴訟する構えを見せた。

〔コメント〕 G氏のいう通り、面接の際に転居の理由を確かめるべきだったのに、一方的な予断で不採用としたのは、明らかなミスである。訴訟を起こされたら敗訴は免れない。しかし最近、このような応募者への対応の不手際から訴えられるケースが増えている。

採用の際、法律は婚姻や家族関係、健康状態、年齢や出身地を聞いたり写真の添付を禁止しており、非常な制約の中で必要な情報を引出さねばならない。J社はそのような煩わしさを考え、“疑わしきは採用せず”という安易な対応をしてしまったようだ。不採用の場合、その理由説明を求めるのは応募者の権利だが、J社の対応では満足な答えが出来ず、もし問題が生じたら極めて不利な状況を招いてしまうことが多い。

それともう一つ、J社がなぜG氏の転居を「定着性に乏しい徴候」と見たのかが問題だ。住宅事情の悪い日本では、年に4回などという転居には余程の事情も考えられよう。しかし住宅の選択も楽で、モビリティ（移動性）が特性のアメリカ人には年4回の転居はそれほど珍しくもない。それを奇異に感じ、疑心を抱くのはむしろ奇妙だ。あまりに日本的感覚にこだわり過ぎてはいないだろうか。そうした傾向は危険でさえあるのだが…。

採用面接にもっとも重要なポイントは日本企業の強みである「チームワーク・企業へのコミットメント」といったものを応募者が備えているかどうかを判断することで、募集人員に対して、よりたくさんのお応募者を集めることも必要だ。

#### 採用面接に必要な質問・説明のポイント

- ① 住所を正確に聞く。現住所にどのくらい住んでいるかを確認する
- ② これまで、どんな仕事をしてきたか どうして前の仕事を辞めたのかを聞く
- ③ 応募職種の遂行が困難な身体、精神、医学上の障害はないかを確認する
- ④ 長所 (Major Strengths), 短所 (Major Weaknesses) はなにかを聞く
- ⑤ 勤務時間、週末作業、残業等の有無を説明し、宗教・信条上に支障がないかを聞く
- ⑥ 仕事以外に、どんな趣味や興味を持っているかを聞く
- ⑦ 仕事に支障なく読み書きできる言語を確認する
- ⑧ これまでの仕事で犯した大きなミスは、どんなことだったか？
- ⑨ 重罪で有罪判決を受けたことがあるかどうかを確認する
- ⑩ これまでの職業で、最も好きだったもの、最も嫌いだったものは何かを聞く
- ⑪ 仕事に関連ある組織団体に加盟しているかどうか確かめる
- ⑫ 5年または10年先に、どういう仕事をしていきたいか聞く
- ⑬ 給料は、どのくらいを希望するかを聞く